

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-136	17-325	慶應義塾大学 加藤眞三
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Potential role for acupuncture in the treatment of food addiction and obesity. 食物中毒と肥満の治療のための鍼治療の潜在的役割。		
<b>執筆者</b>		
Chen JA, Chen JA, Lee S, Mullin G.		
<b>掲載誌</b>		
Acupunct Med. 2018 Feb;36(1):52-55. doi: 10.1136/acupmed-2017-011366.		
<b>キーワード</b>		PMID:
鍼治療 食物中毒 肥満;		29223953
<b>要旨</b>		
<p>世界的に肥満は広がっており、その対処は肥満の影響を受けた個人が受け入れられるような革新的アプローチを必要とする。食物中毒（肥満の1つの要因）が薬物やアルコール嗜癖に多くの類似点を持つことを示唆する証拠が増えている。そして、新しい治療法として中毒を焦点とする鍼治療の潜在的役割を提示されている。</p> <p>本論文では、我々は、食物と薬/アルコール嗜癖と関連する証拠を短時間に見直すことから始める。そして、我々は1970年代に香港でオピオイド中毒を治療するために鍼ベースのプロトコルの開発について解説し、薬物濫用病の範囲を扱う際の鍼の有効性のために証拠について検討する。次に、我々は、鍼治療が離脱を軽減して、断酒を促進する際の、提唱されている作用機序を解説する。</p> <p>最後に、我々は特に食物中毒を治療にあたって鍼の効果の調査の不足について注意を喚起し、より多くの研究が世界的肥満の増加と戦う努力の一部として、この領域で焦点に集まることを提案する。</p>		